

Intoroducthion

～ まちの人紹介 ～



雄武町新日の出町

田中 久実さん



「自分たちの活動をおして雄武町のすばらしさ、酪農業のおもしろさを多くの人に知ってもらいたいです」と話すのは、一昨年の7月から町内の牧場に務める田中さん。

兵庫県西宮市出身で、前職ではツアーコンダクターやホテルなどの観光業に従事されていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響によって失業。次の就職先を探しているときに北オホーツク農協で実施している酪農の「まきば」のシステムを知り、住み込みで働くことが可能であったり条件が良かったことから応募することを決意したそうです。

「現在は、3カ月ごとに町内の牧場を周るような形で勤務しています。牧場によって業務内容が違いますが、主に牛舎の掃除や子牛の哺乳が多いです」「酪農を始めたばかりのころは、

普段使わないような筋肉を使うので何を持つのも重たく大変で、心が折れそうになったこともありましたが、牛と近くで接していて牛の可愛さと賢さにハマり、頑張ることができました。そして、だんだん腕力もついてきて、力仕事も苦ではなくなりました」と晴れやかな笑顔で話してくれました。

「まきばのシステムがきっかけで酪農を始めて酪農と雄武町が好きになり、広報おうむ2月号で紹介された松本さんと一緒に酪農や雄武町をPRする酪農オンラインツアーやオンライン授業もはじめました。思っていた以上に反響も大きく、道外の学校からオンライン授業などの依頼を受ける機会が増えました。このような活動を継続し、雄武町や酪農をより多くの人に知ってもらえるよう頑張ります」と話す田中さんの言葉に熱意が感じられました。

雄武町民憲章（町民の誓い）

雄武町民わたしたちは、オホーツクのきびしい自然を生き、父祖・先人の労苦を感謝しながら、郷土愛にみちた町づくりと、ひとりひとりのしあわせのため、一すこやかに、なごやかに、まめやかに一 励まし合い、希望と自信をもって、生きがいある生活につとめ、たしかな未来につながる信条をかかげて、朝夕守りとおすことを誓い合います。

- 一、自然を生き、住みよい環境をつくります。
- 一、きまりを守り、明るい社会をつくります。
- 一、ともに助け合い、楽しい職場をつくります。
- 一、元気に働き、豊かな家庭をつくります。
- 一、希望に生き、たくましい雄武町民となります。

昭和 46 年 3 月 19 日制定

◆編集後記

Editor's note

▼今回は、ヒンメリのワークショップの取材に行ってきました。ヒンメリを始めて作りましたが、いざやってみると没頭してしまい、一瞬取材のことを忘れてしまうところでした。ストローを代用して作ることも可能なので、家でお子さんと一緒に作ってみるのも面白いと思います。（松井）

▼気温上昇に伴い、雪解けが進み、アスファルトが露出している日が増えてきました。しかし、昼夜の寒暖差で昼間解けた雪が、夜の寒さで凍り、ツルツル路面になっており、思いっきり転倒してしまいました。皆さんは、転倒しないよう路面状態を確認して気を付けて歩いてください。（結城）